

参考資料

- ・ 吉村昭マップ
- ・ 吉村昭ゆかりの地マップ
- ・ 日暮里ゆかりの文化人
- ・ 委員会概要

作品の世界

「長英逃亡」 「坂田門外ノ変」 「間宮林蔵」 「ポーツマススの旗」 「天狗争乱」 「彰義隊」 「生妻事件」 「ふおん・しいほるとの娘」 「ニコライ連鞋」

「死顔」 「冷い夏、熱い夏」 「精神的季节」 「冬の底」 「患者さん」 「日本医家伝」 「少女架刑」 「法師理」 「密金」 「月夜の魚」 「青い骨」

「熊撃ち」 「霧」 「魚影の群れ」 「東京の戦争」 「戦争と<私>」 「昭和最時記」 「食の文学館」

「私の好きな悪い戯」 「私の好きな悪い戯」 「私の好きな悪い戯」 「私の好きな悪い戯」 「私の好きな悪い戯」 「私の好きな悪い戯」

戦前の荒川区 ●昭和2年(1927) 5月1日 東京府北豊島郡 日尊里即ち大学谷中本で誕生。

「大本営が震えた日」 「関東大震災」 「霧流」 「赤い人」 「海も喜れさる」 「破綻」 「深海の使者」 「戦艦武蔵」 「北天の星」 「海女の史劇」 「零式戦闘機」 「破船」 「高熱陸道」

「食の文学館」 「昭和最時記」 「戦争と<私>」 「精神的季节」 「対談集」 20歳

●昭和22年(1947) 学習院高等科文科甲類入学。 ●昭和23年(1948) 1月に東京大学医学部付属病院分院にて、胸部整形手術を受け、左胸部の肋骨5本を失う。

●昭和24年(1949) 栃木県奥那須で療養。 ●昭和25年(1950) 学習院大学改政学部文学科入学。文芸部に所属。 ●昭和27年(1952) 文芸部委員長になり、全誌『赤梅』を発行し、短編を発表。

●昭和28年(1953) 大学を中退、兄の経営する株式会社に入社、半年ほどで退社。11月、北原節子(津村節子)氏と結婚。雑誌関係の団体事務所に勤務。丹羽文雄主宰の同人誌『文藝者』、小田仁二郎主宰の同人誌『Z』などに短編を発表。

「赤い人」 「海も喜れさる」 「破綻」 「深海の使者」 「戦艦武蔵」 「北天の星」 「海女の史劇」 「零式戦闘機」 「破船」 「高熱陸道」

●昭和33年(1958) 短編集『青い骨』を自費出版。『週刊新潮』に短編『宴会』を発表して作家デビュー。

●昭和38年(1963) 『星への旅』で第2回太宰治賞を受賞。『朝日新聞』が『新編』に一挙掲載され、作家として自立。

●昭和41年(1966) 『星への旅』で第2回太宰治賞を受賞。『朝日新聞』が『新編』に一挙掲載され、作家として自立。

●昭和48年(1973) 『深海の使者』で第34回文藝春秋読者賞を受賞。第21回菊池賞を受賞。

●昭和54年(1979) 『ふおん・しいほるとの娘』で第13回吉川英治文学賞を受賞。

●昭和60年(1985) 『冷い夏、熱い夏』で第26回毎日芸術賞を受賞。『破綻』で第36回読者文学賞を受賞。第35回芸術選奨文部大臣賞を受賞。

●昭和62年(1987) 日本芸術院賞を受賞。 ●平成4年(1992) 都民文化栄誉章を受賞。荒川区区民栄誉賞を受賞。

●平成6年(1994) 『天狗争乱』で第21回大佛次郎賞を受賞。 ●平成9年(1997) 日本芸術院賞に選ばれる(2004年に第二部長に就任)。

●平成17年(2005) 短編を宣告され、数度の手術を受ける。 ●平成18年(2006) 7月31日未明に逝去。10月に短編集『死顔』刊行。

●昭和8年(1933) 神愛幼稚園入学。 ●昭和9年(1934) 東京市立第四日暮里尋常小学校入学。 ●昭和15年(1940) 私立東京開成中学校入学。 ●昭和22年(1947) 学習院高等科文科甲類入学。

●昭和23年(1948) 1月に東京大学医学部付属病院分院にて、胸部整形手術を受け、左胸部の肋骨5本を失う。

●昭和24年(1949) 栃木県奥那須で療養。 ●昭和25年(1950) 学習院大学改政学部文学科入学。文芸部に所属。 ●昭和27年(1952) 文芸部委員長になり、全誌『赤梅』を発行し、短編を発表。

●昭和28年(1953) 大学を中退、兄の経営する株式会社に入社、半年ほどで退社。11月、北原節子(津村節子)氏と結婚。雑誌関係の団体事務所に勤務。丹羽文雄主宰の同人誌『文藝者』、小田仁二郎主宰の同人誌『Z』などに短編を発表。

●昭和33年(1958) 短編集『青い骨』を自費出版。『週刊新潮』に短編『宴会』を発表して作家デビュー。

●昭和41年(1966) 『星への旅』で第2回太宰治賞を受賞。『朝日新聞』が『新編』に一挙掲載され、作家として自立。

●昭和48年(1973) 『深海の使者』で第34回文藝春秋読者賞を受賞。第21回菊池賞を受賞。

●昭和54年(1979) 『ふおん・しいほるとの娘』で第13回吉川英治文学賞を受賞。

●昭和60年(1985) 『冷い夏、熱い夏』で第26回毎日芸術賞を受賞。『破綻』で第36回読者文学賞を受賞。第35回芸術選奨文部大臣賞を受賞。

●昭和62年(1987) 日本芸術院賞を受賞。 ●平成4年(1992) 都民文化栄誉章を受賞。荒川区区民栄誉賞を受賞。

●平成6年(1994) 『天狗争乱』で第21回大佛次郎賞を受賞。 ●平成9年(1997) 日本芸術院賞に選ばれる(2004年に第二部長に就任)。

●平成17年(2005) 短編を宣告され、数度の手術を受ける。 ●平成18年(2006) 7月31日未明に逝去。10月に短編集『死顔』刊行。

●昭和8年(1933) 神愛幼稚園入学。 ●昭和9年(1934) 東京市立第四日暮里尋常小学校入学。 ●昭和15年(1940) 私立東京開成中学校入学。 ●昭和22年(1947) 学習院高等科文科甲類入学。

●昭和23年(1948) 1月に東京大学医学部付属病院分院にて、胸部整形手術を受け、左胸部の肋骨5本を失う。

●昭和24年(1949) 栃木県奥那須で療養。 ●昭和25年(1950) 学習院大学改政学部文学科入学。文芸部に所属。 ●昭和27年(1952) 文芸部委員長になり、全誌『赤梅』を発行し、短編を発表。

●昭和28年(1953) 大学を中退、兄の経営する株式会社に入社、半年ほどで退社。11月、北原節子(津村節子)氏と結婚。雑誌関係の団体事務所に勤務。丹羽文雄主宰の同人誌『文藝者』、小田仁二郎主宰の同人誌『Z』などに短編を発表。

●昭和33年(1958) 短編集『青い骨』を自費出版。『週刊新潮』に短編『宴会』を発表して作家デビュー。

●昭和38年(1963) 『星への旅』で第2回太宰治賞を受賞。『朝日新聞』が『新編』に一挙掲載され、作家として自立。

●昭和41年(1966) 『星への旅』で第2回太宰治賞を受賞。『朝日新聞』が『新編』に一挙掲載され、作家として自立。

●昭和48年(1973) 『深海の使者』で第34回文藝春秋読者賞を受賞。第21回菊池賞を受賞。

●昭和54年(1979) 『ふおん・しいほるとの娘』で第13回吉川英治文学賞を受賞。

●昭和60年(1985) 『冷い夏、熱い夏』で第26回毎日芸術賞を受賞。『破綻』で第36回読者文学賞を受賞。第35回芸術選奨文部大臣賞を受賞。

●昭和62年(1987) 日本芸術院賞を受賞。 ●平成4年(1992) 都民文化栄誉章を受賞。荒川区区民栄誉賞を受賞。

●平成6年(1994) 『天狗争乱』で第21回大佛次郎賞を受賞。 ●平成9年(1997) 日本芸術院賞に選ばれる(2004年に第二部長に就任)。

●平成17年(2005) 短編を宣告され、数度の手術を受ける。 ●平成18年(2006) 7月31日未明に逝去。10月に短編集『死顔』刊行。

書籍 記録 ファックス 写真 機関 テープ 万年筆 蔵書

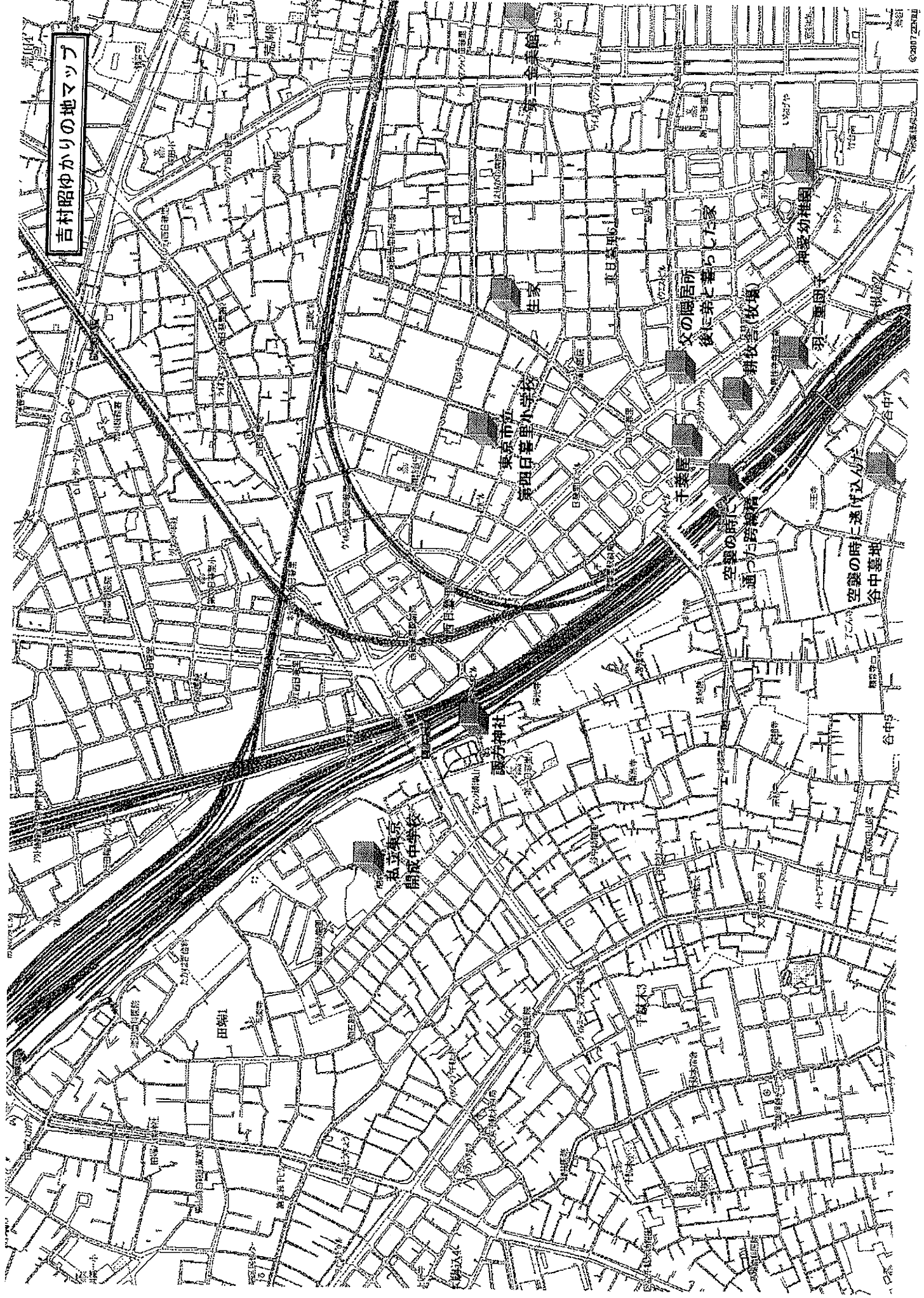
吉村昭を取り巻く人々

大河内昭爾 勝又浩 秋山駿 松本徹 松本通介

長崎市 新編旅日記

父・母・兄弟 津村節子

三島由紀夫 津村節子 小田仁二郎 丹羽文雄 火野葦平 井上友一郎 寺崎浩 石川光 志賀直哉



日暮里ゆかりの文化人

No.	名称	概要
①	中村不折	1866-1943 洋画家 ・小学校卒業後、上諏訪町の呉服店勤務
②	正岡子規	1867-1902 俳人、歌人 ・根岸、現「子規庵」に居住
③	幸田露伴	1867-1947 小説家 ・著作『五重塔』は、谷中墓地の五重塔をモデルにしたもの
④	満谷国四郎	1874-1936 洋画家 ・谷中の真島町にある太平洋画会（現：太平洋美術会）で指導
⑤	高村光太郎	1883-1956 彫刻家 ・日暮里小学校出身
⑥	朝倉文夫	1883-1964 彫刻家 ・台東区谷中に住居兼アトリエ（現：朝倉彫塑館）を構える。
⑦	田村俊子	1884-1945 小説家、女優
⑧	中村彝（つね）	1887-1924 洋画家 ・1909～ 田端村日暮里に居住 ・1910～1911 日暮里千六十六番地晩翠館に居住 ・1915～1916 下谷区初音町有楽館に下宿
⑨	久保田万太郎	1889-1963 小説家、劇作家、俳人 ・1923 関東大震災後、日暮里渡辺町 ・1924～1925 諏方神社の鳥居のかたわらに居住
⑩	古今亭志ん生	1890-1973 落語家 ・1951～ 日暮里に居住
⑪	長谷川利行	1891-1940 洋画家 ・1926 日暮里の日蓮宗中山派の修練所離れに居住 ・1932 日暮里2丁目の画家児玉勝次の下宿に、水彩画家谷井喜三郎とともに同宿 ・1935 浅草区龍泉寺町の東京市営龍泉寺宿泊所に居住 ・1940 荒川区三河島救世軍宿泊所に居住

■ 委員会概要

I. 「(仮称) 吉村昭記念文学館基本構想委員会」設置要綱

(設置)

第1条 荒川区出身の吉村昭氏を記念する文学館の設置に向けて、「文学館基本構想」を策定するため、「(仮称) 吉村昭記念文学館基本構想委員会」(以下「委員会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、文学館の基本コンセプト、展示の基本的な考え方や事業活動の在り方について検討し、「文学館基本構想」を策定する。

(構成)

第3条 委員会は、次に掲げる者の中から、委嘱する委員をもって構成する。

- | | |
|---------|----|
| 一 学識経験者 | 3名 |
| 二 専門有識者 | 5名 |
| 三 地域関係者 | 8名 |
| 四 区職員 | 2名 |

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、委員会が第2条に規定する検討を終了したときに満了する。

(会長)

第5条 委員会に委員長と委員長代行を置く。

- 2 委員長は委員の互選によりこれを定める。
- 3 委員長は委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 委員長代行は、委員の中から委員長が指名する。
- 5 委員長代行は、委員長を補佐し委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は委員長が招集する。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席なければ、会議を開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、委員会に委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、社会教育課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成19年6月19日から施行する。

II. 基本構想委員会の運営方法

効率的で中身の濃い議論が行えるよう、以下の三つの組織により、委員会を運営します。

- A. 全体委員会：委員全員で基本的な考え方を協議する。
- B. 展示・事業部会：展示をはじめとする事業活動について、専門的かつ具体的な議論を深める。
- C. 活用部会：地域及び利用者の視点から、幅広い活用のあり方を検討する。

III. 基本構想委員名簿

A. 全体委員会

	委 員	備 考
1	やまざき 山崎 かずひで 一穎	跡見学園常務理事、跡見学園中学校高等学校校長、 (財)日本近代文学館常務理事、森鷗外記念館協議会会長
2	おおこうち 大河内 しょうじ 昭爾	武蔵野大学名誉教授、武蔵野女子大学元学長、 文芸評論家、エッセイスト
3	にしむら 西村 ひでとし 英俊	日本貿易振興機構（ジェトロ）参与、元愛媛県理事、俳人
4	あまの 天野 けいこ 敬子	元講談社取締役
5	くりはら 栗原 まさや 正哉	元新潮社編集委員
6	わだ 和田 ひろし 宏	元文藝春秋社出版局長、 (財)司馬遼太郎記念財団 会誌編集委員会幹事
7	いしざき 石崎 ひとし 等	元立教大学教授
8	くさばら 草原 まちこ 真知子	早稲田大学文学部教授
9	うえだ 上田 やすゆき 泰行	荒川法人会副会長、上田印刷紙器(株)会長
10	おがわ 小川 たかお 隆夫	荒川食品衛生協会会長、日本セントラル・キッチン社長
11	さくらい 櫻井 よしただ 善忠	区政改革懇談会座長、 元荒川区歯科医師会会長、太陽歯科衛生士専門学校校長
12	ささき 佐々木 あい子 こ	荒川区文化財保護審議会委員、東京都子ども会連合会理事長
13	さわの 澤野 しゅういち 修一	東京リバーサイドロータリークラブ、 (株)羽二重団子代表取締役
14	たけうち 竹内 あつみ 渥躬	東京荒川ロータリークラブ、竹内鋼材(株)社長
15	たけうち 竹内 はじめ 一	東京商工会議所荒川支部会長、壮光舎印刷(株)社長
16	いじま 井嶋 けいじろう 佳二郎	井嶋金銀工業株式会社代表取締役会長
17	ともつか 友塚 かつみ 克美	教育委員会事務局次長
18	のじり 野尻 かおる	荒川ふるさと文化館副館長・総括学芸員

B. 展示・事業部会

	委 員	備 考
1	やまざき 山崎 かずひで 一穎	跡見学園常務理事、跡見学園中学校高等学校校長、 (財)日本近代文学館常務理事、森鷗外記念館協議会会長
2	おおこうち 大河内 しょうじ 昭爾	武蔵野大学名誉教授、武蔵野女子大学元学長、 文芸評論家、エッセイスト
3	にしむら 西村 ひでとし 英俊	日本貿易振興機構（ジェトロ）参与、元愛媛県理事、俳人
4	あまの 天野 けいこ 敬子	元講談社取締役
5	くりはら 栗原 まさや 正哉	元新潮社編集委員
6	わだ 和田 ひろし 宏	元文藝春秋社出版局長、 (財)司馬遼太郎記念財団 会誌編集委員会幹事
7	いしざき 石崎 ひとし 等	元立教大学教授
8	くさほら 草原 まちこ 真知子	早稲田大学文学部教授
9	のじり 野尻 かおる	荒川ふるさと文化館副館長・総括学芸員

C. 活用部会

	委 員	備 考
1	やまざき 山崎 かずひで 一穎	跡見学園常務理事、跡見学園中学校高等学校校長、 (財)日本近代文学館常務理事、森鷗外記念館協議会会長
2	おおこうち 大河内 しょうじ 昭爾	武蔵野大学名誉教授、武蔵野女子大学元学長、 文芸評論家、エッセイスト
3	うえだ 上田 やすゆき 泰行	荒川法人会副会長、上田印刷紙器(株)会長
4	おがわ 小川 たかお 隆夫	荒川食品衛生協会会長、日本セントラル・キッチン社長
5	さくらい 櫻井 よしただ 善忠	区政改革懇談会座長、元荒川区歯科医師会会長、 太陽歯科衛生士専門学校校長
6	ささき 佐々木 あい子	荒川区文化財保護審議会委員、東京都子ども会連合会理事長
7	さわの 澤野 しゅういち 修一	東京リバーサイドロータリークラブ、(株)羽二重団子代表取締役
8	たけうち 竹内 あつみ 渥躬	東京荒川ロータリークラブ、竹内鋼材(株)社長
9	たけうち 竹内 はじめ 一	東京商工会議所荒川支部会長、壮光舎印刷(株)社長
10	いじま 井嶋 けいじろう 佳二郎	井嶋金銀工業株式会社代表取締役会長
11	ともつか 友塚 かつみ 克美	教育委員会事務局次長

IV. 基本構想委員会開催概要

基本構想委員会	主な議事
第1回基本構想委員会 (全体) 平成19年8月27日(月) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・資料説明（基本調査の概要、寄託資料の概要） ・(仮称)吉村昭記念文学館の方向性に関する検討
第1回展示・事業部会 平成19年10月2日(火) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・資料説明（展示空間、書斎の再現展示手法、文学館と作家の関係、文学館のテーマ等の参考事例） ・(仮称)吉村昭記念文学館の基本的な性格とテーマに関する検討
第2回展示・事業部会 平成19年11月8日(木) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・展示や諸事業における吉村昭の世界に関する検討 ・展示部門の基本方針
第3回展示・事業部会 平成19年12月6日(木) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的事業に関する検討 ・デジタル技術を活用した展示に関する事例紹介及び導入に向けた検討
第1回活用部会 平成19年12月17日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・展示部会の報告 ・周辺地域を利用した吉村昭の紹介に関する検討 ・利用者サービスに関する検討 ・活動支援組織に関する検討
第2回基本構想委員会 (全体) 平成20年2月28日(火) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・活用部会の報告 ・施設構想に関する検討 ・文学館館長に関する事例紹介、検討
第3回基本構想委員会 (全体) 平成20年3月25日(火) 19:00～21:00	<ul style="list-style-type: none"> ・基本構想報告書素案の検討

(仮称)吉村昭記念文学館基本構想

平成20年7月 発行

登録(20)0026号

発行 荒川区教育委員会事務局社会教育課
(文学館調査担当)

〒116-8501 荒川区荒川二丁目2番3号

電話 03-3802-3111 内線 3353